



## 柔らかなコットンに包まれて

高原を進んでいくと、景色は一変、広大な大豆畑が見えてきた。南米の内陸国パラグアイの田舎町ピラポ。海はもちろん、目立って大きな山もない。しかし、この土地に受け継がれてきた伝統文化は、どれも訪れる者を魅了する。

その一つが“アオポイ”だ。薄手のコットン生地、カラフルな糸で刺しゅうを施したもの。洋服はもちろん、小物や生活雑貨など、日常のさまざまな場で使われている。これを観光資源として生まれ変わらせようと奮闘しているのが、青年海外協力隊の川本菜未さんだ。

地方部を中心に、まだ貧しい人々が多いこの国。仕事を心得て家族の助けになりたいと思っている女性も多いが、その機

会も少ない。「アオポイは生地の手触りが良くて刺しゅうも繊細。外国人の観光客にも魅力的だと思いました」。地元の女性たちと協力し、アオポイのポーチ作りが始まった。

まずはデザインから。「ファスナーは真ん中につけたほうがいいんじゃない?」「この色にはこんな模様が合うと思うわ」。仲間との会話も楽しみの一つ。日本でパタンナーの仕事をしていた川本さんのサポートも心強い。今後は商品の種類を増やしなが、国内で販路拡大を図っていく計画だ。

今日も工房に響き渡る女性たちの笑い声。ポーチを手にとると、その光景が目に浮かんでくるようだ。



女性たちが親から受け継いだ刺しゅうの技術はお見事!

★パラグアイのポーチを4人にプレゼント! → 詳細は38ページへ

